

学校だより

加茂野小学校

学校の教育目標

豊かな心とやりぬく力をもつ加茂野の子
考える子・優しい子・元気な子



災害から命を守るために…

教頭 岡田 優子

- ① 阪神淡路大震災：1995年1月17日午前5時46分、突然の大きな揺れで目を覚ましました。生後間もない長男を抱っこして右往左往したのを覚えています。
 - ② 東日本大震災：2011年3月11日午後2時46分、私は学校にいて教室で揺れを感じました。とっさに子どもたちを机の下にもぐらせたのを覚えています。
 - ③ 能登半島地震：2024年1月1日午後4時10分、初詣から家族で帰宅し、自宅に入ろうとしたその途端、緊急地震速報が鳴りました。建物から離れ、家族で身を守る姿勢になったところで、揺れが襲ってきました。
- この3つの地震は、私の人生において記憶に鮮明に残る地震です。

1月18日(木)、命を守る訓練を行いました。今までは地震による訓練を行っていましたが、今回は火災による訓練で、しかも掃除時間の設定です。自分の教室ではない児童は、近くに教員がいない中、自分たちで考えて動かなくてはなりません。案の定、様々な場面で、どうしたらよいか分からず困ったようです。

自分の命を守るために、身につけなくてはならない力として

- ① 命を守るための正しい知識
- ② 命を守るための思考・判断・行動力
- ③ 「絶対に命を守る！！」という強い思い

が必要だと考えています。



学校では、命を守る訓練を繰り返し行うことで、これらの力を身につけていきます。

今回は、火災のため窓を閉めるという作業が必要でしたが、どのクラスもしっかりとできていました。これは、命を守る知識の1つが身につけていたといえます。1年生の掃除場所では、一緒に掃除をしていた6年生の子たちが、1年生の子を整理させ避難誘導をしました。これも命を守るために6年生が自分たちで考え行動した素晴らしい姿です。

残念ながら、命を守る正しい知識が、全て身につけているとはいえず、火災であるのにハンカチで口を覆っていなかったり、走って逃げてしまったり、集まった時にしゃべってしまったりという姿が一部見られました。その要因として、「絶対に命を守る！！」という強い思いが弱かったことが考えられます。

数々の震災で生死を分けたのは、生きる！という強い思いと、正しい知識と、とっさの判断力だと言われています。私たちには、子どもたちがいつどんな場合でも一人であっても、自分の命を守ることができるようにしていく使命があります。

各学級で災害への向き合い方を指導し、23日(火)に命を守る訓練を再度実施しました。さて、結果は…。見事でした。どの子もハンカチで口をおさえ、素早く静かに避難しました。高学年が低学年に声をかけながら避難する姿も見られました。740人が集まった運動場はシーンと静まり返り、職員の点呼・報告する声だけが響いていました。終了後も静かに校舎に入ることができました。自分たちの命を守るために真剣に取り組む姿勢・空気が伝わってきて、本当に素晴らしい姿でした。今回の命を守る訓練の様子を、是非お子さんに聞いてみてください。そしてご家庭でも、今一度災害の時どのように避難するのか話し合い、防災について考える機会をもっていただけたらと思います。